

平成17年4月30日

従業員各位

株式会社 徳 株式会社傳六

株式会社傳七 有限会社和公

代表取締役 鷺岡和徳

前略、桜も散り、大変過ごしやすい季節になりました。今月も業務に専心いただきありがとうございます。先日、私はセブンーイレブンの鈴木敏文会長の話聞く機会がありました。彼曰く、経営者というのは八百屋のおやじと同じでいい。商人が商人としてあるために社員を一生懸命指導し、一生懸命怒り続けなければならない。これが21世紀の社長業であるといっていました。泰然自若としていて小さいことに目を向けないという社長像は過去の遺物であるとも言っておりました。2年前にセブンーイレブンのカレーパンが真ん中が凹んでいて美味しくないと突如怒り出し、その頃まあまあの売れ行きであるカレーパンをすべて廃棄し、真ん中が膨らむまで具を大きくして再販売しました。よく売れていても自信が美味しくないとしたもの販売する事が許せなかったのです。要するに鈴木会長はあえて売れているという事実を否定するのです。セブンーイレブンは今、絶好調ですがそれでも一年に七割くらい商品を変えています。2年したら看板は一緒でも中身は違うお店のようになっています。つまりそれだけ商品開発に力を入れているということのみならず、今日の否定が商売において大変大切である事、自己を否定する事が大きな進歩、進化につながるという事なのです。景気が回復しつつあるといわれる現在にあってもすべての会社が一樣に成長できるわけがありません。厳しい時代に生き残るためには小さな小さな頑張る力や、小さな小さな優しさ、小さな小さな努力を積み重ねていくしかありません。このような意識を持って一生懸命にひたむきに生きることがこれからの時代にはとても大切になるのではないかと思います

「私たちはお客様のために常に新しいことに挑戦し、食生活に**新たな価値**を創造しつづけます。」
すべては自分のために。

すべてはお客様のために。

すべては会社のために。

すべては社会のために。

来年も一緒に頑張りましょう。

草々